



# 『私の忘れもの』 第30号

H22.1.22

あけまして おめでとう ございます

今年も、皆様のお役に立てる情報をお届けできますよう努めて参りますので、昨年同様、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。



## ☆ 認知症を発症した方への関わり方・・・徘徊の原因を知る

徘徊にはいくつか種類があり、何故認知症を生じた人が徘徊するのか、理由もいろいろあります。正しく関わるには、その理由を知ることがとても大切です。

- ① 迷子になる：道を間違えたり、一緒に出かけた相手を見失う。
- ② 新しい環境：引越しなどで、新しい環境での行動を憶えられない。又は家に帰ろうとする。
- ③ 目的の無い徘徊：いったい自分はどこにいるのか、私の知っている人はどこにいるのだろうと、探しているのかもしれない。

こうした原因の他に、焦燥、退屈、運動不足などもあげられます。又興奮状態での歩き続けや、家から逃げ出すつもりでの徘徊は、関わり方が困難です。興奮状態での徘徊は、脳に何が起きているのか知ることには困難ですが、脳がおとろえていることは明らかです。ご本人がコントロール出来るものでないことを理解してあげてください。

次号では関わり方をお知らせ致します。

(松尾 記)

## ☆ 認知症の種類・・・認知症と紛らわしいもの（せん妄）

(原因) せん妄は異常な精神状態を示すもので、病気ではありません。ほとんどどのような病気でも悪化すると、せん妄は起こりえると言われています。病状が重い時や脳の機能に影響するような薬を服用すると、誰でも混乱しがちになります。高齢者や認知症あるいは神経系の病気にかかっていると、重症でなくてもせん妄は起こります。疎外感や孤立感、不眠などがきっかけでせん妄が起ることもあります。

(症状) せん妄の特徴は、突然起こり良くなったり悪くなったりと変動します。症状としては幻覚や妄想が現れて、興奮状態となりますが、一時的（数日から数週間）な状態です。認知症ではせん妄は徐々に起こり、数ヶ月から数年続きます。

## ☆ サインを見逃さずに・・・大きなメリット

これまで13回に亘ってサインを見逃さない為に大事だと思われる点について、具体的な事例を挙げてお伝えしてきましたが、今回は視点を変えて、何故事前にサインを見逃さない事が大切なのかを整理してみたいと思います。

第25号の記事でも触れましたが、認知機能の低下(変化)に最初に気が付くのは多くの場合当事者ご本人だと言われています。認知症に関する情報が、質量とも豊富になった最近では、この段階で本人が渋る家族を説得して診察を受けに来る例も増えつつあると聞きます。また、いやいやでも早期の受診は重要で、発症前や初期の段階で診断を受けることにより、発症の原因となる病気の種類によっては治療によって治る事も考えられますし、発症後の進行を遅らせる可能性も生まれます。そして最も重要な点は、今後の病状の進行を踏まえて、これからどうしたいかをご本人と介護に当たるご家族とがきちんと話し合う事で、皆がお互いの考えを事前に知ることが出来れば、将来に亘ってご本人の尊厳を保つ上での大きな要素となります。この事はお互いにとって大きなメリットだと思います。

(福原 記)

『私の忘れもの』は、「福祉のまちづくりパートナーシップ区民活動支援事業」の助成を受けて印刷されています。

お問い合わせは「白い箱の会」事務局（松尾方 TEL:FAX 3998-9006）まで。